

企業ニュース **ダイキン工業**

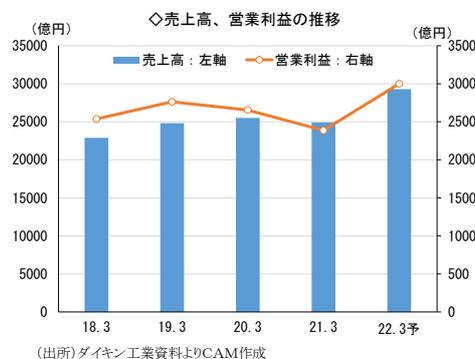
(東証1部: 6367) <https://www.daikin.co.jp>

作成者: 奥村義弘

空調市場のリーディングカンパニー

1924年創業。空調を中心に展開する。様々な業務用・家庭用エアコン、冷凍・冷蔵装置などを扱う。フッ素化学製品でも世界的メーカー。半導体エッチング剤、フッ素樹脂、フッ素ゴム、通信ケーブル用樹脂などの製品群を有する。建機向け油圧機器、防衛省向け砲弾なども取り扱う。

戦略経営計画「FUSION25」では、成長戦略3テーマとして「カーボンニュートラルへの挑戦」「顧客とつながるソリューション事業の推進」「空気価値の創造」を掲げる。22.3期・第2四半期累計の売上高構成比は空調・冷凍機92%、化学6%、その他2%。



旺盛な需要に高いソリューション力で応える

22.3期の通期会社計画は売上高が2兆9,300億円、前期比18%増、営業利益が3,000億円、同26%増。8月公表計画を営業利益で100億円上方修正した。業務用空調の需要回復の遅れ、新型コロナウイルス感染拡大、原材料・物流費の高騰などがリスク要因だが、中国では、専売チェーン「プロショップ」による高い提案力が高収益率を支える。オンラインの活用、幅広い商品を活用した優れた提案力が成長に寄与している。北米では住宅市場が好調、M&A効果も表れた。欧州ではヒートポンプ暖房が好調で、新たな収益源として存在感を増している。EV向けエアコン用新冷媒、革新的電池向けフッ素化学技術など、環境対応の新技术にも関心が集まっている。

戦略経営計画「FUSION25」では、定量目標に26.3期の売上高3.6兆円、営業利益4,300億円(営業利益率約12%)を掲げる。23.3期、24.3期も事業拡大に向けた先行投資を確実にこなしたうえで最高益更新を視野に入れる。既存事業ではグローバルで空調機器を拡販する。それとともに、「カーボンニュートラル」ではルームエアコンでのインバータ化率引上げや暖房・給湯事業での燃焼型からヒートポンプ式へのシフトを加速する。「ソリューション事業」では、保守・点検、運転時の付加価値提案から改修・更新まで、コト売りビジネスを確立する。「空気価値」では空気清浄機や換気装置などへの需要の高まりをチャンスと捉え、一大事業化を目指す。

【株価動向・投資判断】

短期的にはコロナ特需の反動減などが意識されるが、中長期での成長期待は高い。

<6367 ダイキン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	2,550,305 (▲3)	265,513 (▲4)	269,025 (▲3)	170,731 (▲10)	583.6	160.00
21.3	2,493,386 (▲2)	238,623 (▲10)	240,248 (▲11)	156,249 (▲8)	534.0	160.00
22.3 予	2,930,000 (▲18)	300,000 (▲26)	302,000 (▲26)	203,000 (▲30)	693.7	180.00



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2021/12/17)	26,300 円
年初来高値(高値日)	29,595 円 (21/9/7)
同 安値(安値日)	19,905 円 (21/6/9)
予想 P E R (22.3 予)	37.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	6,131.6 円
P B R	4.29 倍
予想配当利回り	0.68 %
(1株当たり配当金180.00円)	
R O E (21.3)	10.1 %
発行済み株式数	29,311 万株